

香港の書店関係者5人の失踪状況



林榮基氏ら3人
昨年10月広東省
深圳などで失踪か



中国本土に
連行か?

李波氏
昨年12月
香港で失踪

香港メディアの
報道から

桂民海氏
昨年10月
タイで失踪

中国本土に
連行か?

書店長ら拘束 認める

香港で共産党批判本

中国共産党に批判的な本を出版・販売していた香港の「銅鑼灣書店」関係者5人が失踪した事件で、中国広東省の公安当局が、消息不明だった店長ら残り3人を拘束し、刑事事件で捜査していると認めた。中国側から連絡を受けた香港警察が4日夜、発表した。これでも5人全員が中国本土で当局の調べを受けていることが明らかになった。

中国「3人を捜査中」

中国側が拘束を認めたのは、昨年10月に広東省などで失踪したとされる書店の林榮基店長ら3人。香港警察の発表によると、中国側は「3人が桂という人の事件に関連し、中国本土内で違法な活動に従事した疑いがあり、法に基づいて強制捜査を受けている」と伝えてきた。書店親会社の株主で作家の桂民海氏の事件を揶揄とみられる。

タイで失踪した桂氏は国营メディアで、死し事故を起して執行猶予中の12年前に国外に逃亡した罪を「自白」。国营メディアは

「越境」連行疑いも

一連の失踪事件をめぐるには、中国当局がタイや香港から関係者を連行した疑いが指摘されている。

香港紙やシンガポール紙の元記者で、自らも2005年にスパイ罪で中国当局に拘束された程翔氏(66)は「中国当局が香港から人を中国に連行した例は以前にもあった」と話す。

程氏が親中派の香港紙「文匯報」時代に同紙幹部から聞いた話では、香港が中国に返還される前の1970年代から80年代にかけ

桂氏が別の犯罪に関わった疑いも指摘しており、5人は中国の体制を批判する出版活動に関連して調べられている可能性もある。

中国側はまた、「自ら中国に渡り、調査に協力している」と妻に連絡してきた書店親会社の株主で作家の李波氏からの手紙も香港側に渡した。香港警察は李氏との面会を求めているが、李氏本人は「今は必要ない。必要があれば、自分から警察に連絡する」と書いていたという。

少なくとも3例あり、主に香港島から貨物船に乗せて中国に運んでいた。程氏は「中国は以前と同じことをしたつもりなのかもしれないが、国際社会から注目されたため説明をせざるを得なくなった」とみる。

その「説明」が、李波氏らが口をそろえる「自ら中国に戻り、捜査に協力している」というものだ。

しかし、近年、海外に捜索の手を広げる中国の公安・安全当局が、相手国の警察・司法権を侵しているの

ではこの疑いは根強い。

習近平指導部は、海外に逃した腐敗官僚らを中国に引き戻す「キツネ狩り」に力を入れている。複数の米メディアは昨年8月、米政府が中国当局者が観光や商用で米国に入り、容疑者を捜し出して帰国するよう脅迫していることを確認。違法行為だと中国に警告したと伝えた。

一方で、中国の影響力の高まりを背景に、周辺諸国が中国側の捜査協力や身柄の引き渡し要請に応じる流れも強まっている。

昨年10月、人権派弁護士の子がミャンマーに逃亡した事件で、中国国营メディアは「ミャンマー警察が少年を拘束し中国当局に引き渡した」としたが、支援者からは「連携が良すぎる」と、拘束の経緯を疑う声がある。同年7月には、タイに逃れたウイグル族約100人が、中国の要請を受けて強制送還された。

(広州＝延亨光氏、北京＝林暁)